

## 第1章 良好な景観の形成のための視点

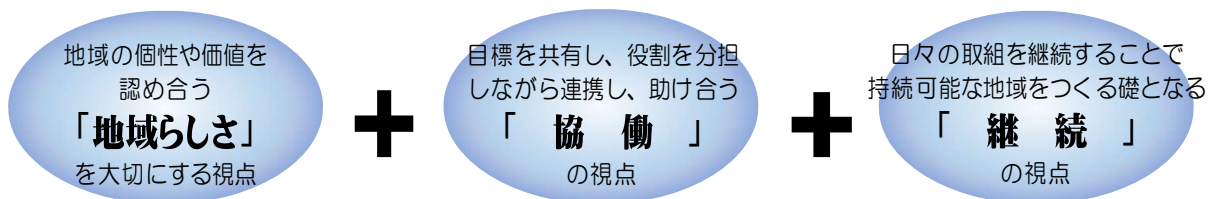
景観は、人々の生活や事業活動等の営みと自然、歴史、文化等が重なりあって形をなすたまたまのことで、景観には、人々が何を大切に、どのようなルールで暮らしているか等の価値観やライフスタイルそのものが表れてきます。

北海道においては、広大な自然が市町村の境界を越えて存在する広域性、さまざまな自然、歴史、文化が重なり合う多様性が存在し、これらの景観特性のもと、農山漁村の景観、住宅地や市街地の景観、商業地の景観など、北海道特有の景観が形成されてきました。

そこには、広大で密度の高い自然と快適な都市生活の両者を享受できる暮らし、自然環境と共生した都市での暮らし、また、厳しい自然環境と向き合いつつ、自然と共生する中から生まれてきた素朴な暮らし、といった、北海道に暮らす人々のライフスタイルの特性が反映されています。

このように景観は、地域の歴史をものがたり、人々の暮らしと文化の積み重ねを反映し、環境と地域社会との関係が表れるものです。

「良好な景観」とは、単なる表層の美しさだけではなく、  
そこでしか味わえない感動や安らぎを与えてくれるものです。  
「良好な景観」を形成していく際には、次の「3つの視点」を大切にしていきます。



## 【地域らしさの視点】

### ○地域の個性や価値を認め合う、「地域らしさ」を大切にする視点

良好な景観は、住む場所、訪れる場所として、人を惹きつけ、感動を与える場所となり、そこでの生活の質や生産された物の価値を高めるなど、住む人々の地域への愛着を育み、ひいては、観光振興など経済活動を活性化、交流・定住人口の増加、コミュニケーションの機会をさらに生み出していき、地域固有の価値となるものです。

地球規模で様々な活動や情報がグローバル化している時代において、地域のアイデンティティー、すなわち地域固有の価値は、地域の魅力を計る上での大きな要素の一つです。

北海道の良好な景観は、日本の中において、またアジアの中、世界の中にあっても、地域固有の価値として認められるものであり、今後さらに、北海道の特性を最大限活かし、

「地域らしさ」を大切に<sup>きな</sup>した生成りの景観※によって北海道をより魅力ある地域にしてい  
くことが、これからの時代の新たな発展への基盤となります。

## 【協働の視点】

### ○目標を共有し、役割を分担しながら連携し、助け合う「協働」の視点

良好な景観は、人々の生活や事業活動などの営みと豊かな自然や歴史、文化等が良い状態で共存し、重なりあっている、環境と地域社会が調和した姿を映し出すものです。

そして、良好な景観を形成するためには、生活する人や生産や事業を行う人、景観づくりを支援する人など、地域に関わる様々な人々が力を合わせていく必要があります。

**景観づくりにおいて、住民や行政、企業、公益法人をはじめとする各種団体、専門家などの様々な立場の人々や、環境や産業、教育、文化など多様な分野に携わる人々が、対話を重ね、共通の目標を持ち、適切に役割を分担しながら、連携し、助け合うこと、すなわち「協働」することが大切です。**

地域に関わる多様な主体が、地域らしい良好な景観に「気づき」、「守り」、「育て」、そして「整えて」のイメージを共有し、力を合わせていくことは、魅力ある地域をつくる大きな力を生み出すことにつながっていきます。

## 【継続の視点】

### ○日々の取組を継続することで、持続可能な地域をつくる礎となる「継続」の視点

良好な景観は、短い期間で出来上がるものではなく、不断に手をかけ、守り、育て、整えていくという、継続した取組によって生み出されていくものです。長い歴史の中で変わらぬ姿の自然や歴史的まちなみも、日々の保全活動や維持管理によって守られているものであり、また、失われた自然を再生したり、雑然とした市街地を徐々に調和のとれたまちなみにしていくことも、日々の継続した取組によってなされるものです。

このような地域では、多くの人々が、**自分たちのライフスタイルに誇りを持って地域づくりに取り組み、世界中の人々を惹きつけるとともに、良好な景観が故郷を大切にする感性豊かな人を育てます。そして、その新たな担い手が地域らしい良好な景観を守り、育て、整えていくという、世代を超えた継続の仕組みが生まれます。**

このように、時を重ねて「継続」して景観づくりに取り組んでいくことは、北海道が将来にわたって持続可能で豊かに暮らせる地域となることにつながっていきます。

